

主な意見等

1. 選定委員会実施要領について

- ・推薦書の様式の取組例について、希少種とか雑滅危惧種がいるという項目があるとわかりやすく良い。また、棚田の生き物の観察会を実施しているところがあるので、そういったものを評価できる項目があると良い。
- ・段々畑の扱いをどうするか。日本の棚田百選では対象外とした。今回も方針を決めておいた方が良い。
- ・多様な主体が棚田地域の振興を続けて行くためには、多世代が関わっていることが必要。
- ・耕作放棄地が高い棚田を選定してしまうと、せっかく訪れても、「これが百選なのか」と思われてしまう。

(決定)

- ・選定委員会実施要領について、意見を踏まえた文言を加えること。
- ・段々畑については、棚田地域振興法と同様、1/20 以上の一団の棚田が 1 ha 以上あることが条件で、段々畑だけでは対象にならないとすること。

2. 名称について

- ・棚田を初めて知る人たち、新たな若い層や、棚田を見たことのない人たちが、棚田に行ってみたい、観てみたいと思ってもらい、きれいだなとかここで耕作をしてみたいと思わせることが大切。
- ・棚田遺産という言葉について、現役で頑張っている棚田について遺産という言葉を使うのが気になる。
- ・遺産という名称は、世界遺産が有名なので、宝物という感じ方が強い様に思う。
- ・美しいとか、素晴らしいとか、未来とか、目を引くようなフレーズが欲しい。
- ・日本の棚田百選があって、今回の取組もあるので、新とか令和とかつけると分かりやすい。
- ・新をつけると、長い時間が経過したとき、よく分からなくなる。
- ・外国人の人にも来てもらいたいのので、令和ということばを入れるのは反対。令和が何か分からない。
- ・百以上出た時に百とは言いつらいし、〇百〇十〇選とかも言いつらいので、百という数字は入れない方が良い。
- ・人の耳に残るキャッチーな言葉として、数字が入った方が良い。
- ・次世代に残していくという意味で、つなぐというワードが良い。ワードは短く覚えやすいのが重要。
- ・厳しい状況にある中で、守りたいという思いを次代につなげるという気持ちを込めたい。

(決定)

つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～